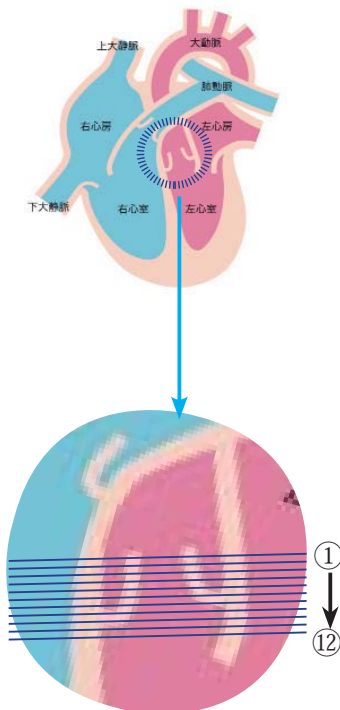


こんな技術 / 受託実績もあります。

★ 大動脈弁の標本作製



動脈硬化病変の観察に適した病理標本作製サービスです。

大動脈弁における病理標本作製は動脈硬化形成病変モデル動物での依頼があります。

【 受託対象動物 】ラット・マウス

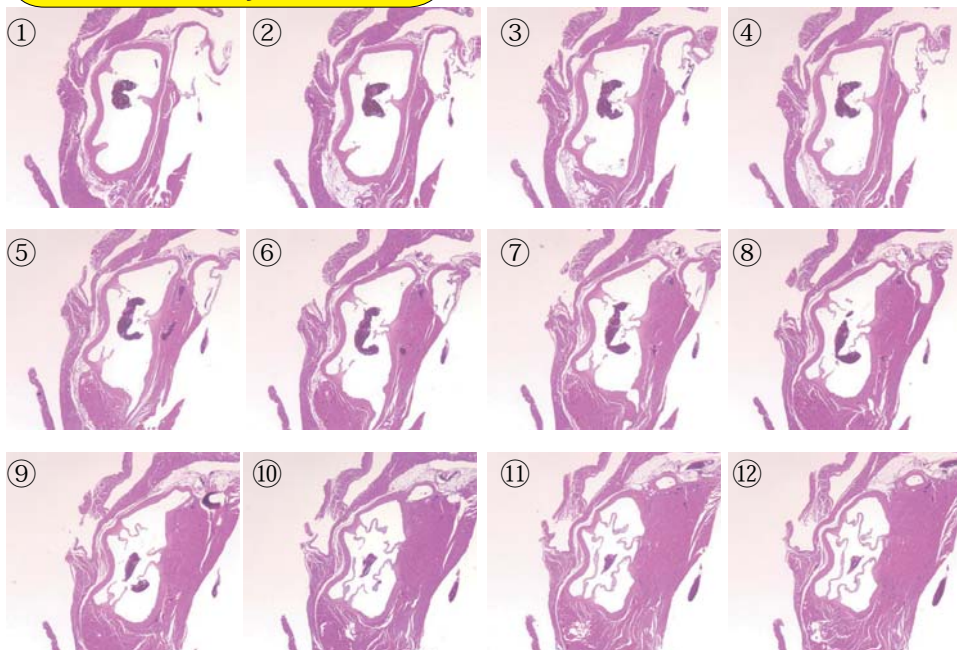
【 技 術 】組織学的な知識と共に的確な薄切技術が必要であり、経験と優れた標本作製技術が必要です。

【 サービス内容 】大動脈弁の先端①から⑫（左図・下図）へ薄切を開始し弁の内部から50 μ m 間隔で基部⑫まで12枚の亜連続切片作製を行ないます。

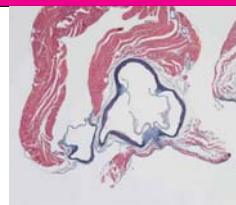
3切片 / スライドを4枚作製して「セット」納品物とします。
 染色費用は別途請求となります。

研究目的に沿った写真撮影（ショット写真、バーチャルスライド）、検鏡、画像解析（面積測定等）も別途受託可能です。

ラット大動脈弁標本例 HE 染色



マウス大動脈弁標本例 EM 染色



採材、固定、輸送時の注意事項については裏面も確認ください。

株式会社 新組織科学研究所

<http://www.hslabo.co.jp/>

ご注意：

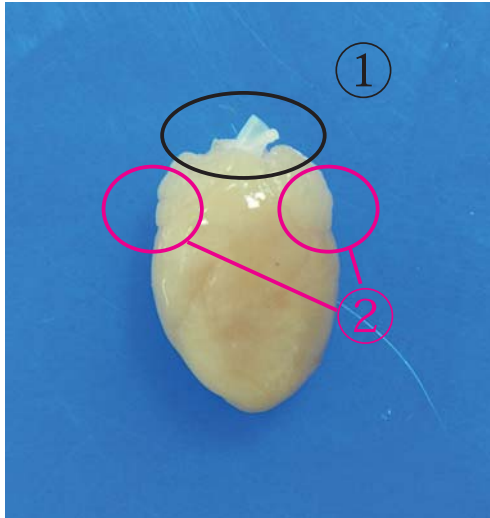
本案内のサービスおよび装置仕様は、サービス受託の際に変更される場合があります。
 詳しくは、お問い合わせいただくか、当社 HP 情報にてご確認ください。

【大動脈弁の標本依頼時の注意】

当社は本臓器標本では多くの実績があります。しかし、非常にシビアな微細構造組織の標本作製となりますので、熟練された技術者により、最適な採材および固定が実施されることが必須となりますことご注意ください。

事前の問い合わせ等はお受けしております。なお、当社では、採材についての技術指導は実施しておりませんことご承知おきください。

【提出する臓器の注意】



目的箇所が大動脈基部付近ですので下記にご注意下さい。

採材時の注意

- ①大動脈は基部付近まで切り取らず極力長く保った状態として下さい。
※解剖時は大動脈を引っ張る等の物理的な圧力を避けるようにして下さい。
- ②左右の心耳は取り外さず、そのままの状態として下さい。
- ③固定方法；灌流固定等を行い血液成分は取り省いて下さい。